

森林環境教育(森林ESD) 活動報告・意見交換会 講評



京都教育大学
山下 宏文

森林ESDによって、森林環境教育のあり方の共通認識を図る！



< 森林ESDの考え方 >

社会的課題への対応

教育的課題への対応

持続可能な開発のための教育(ESD)



環境教育



森林環境教育



(各活動)

森林環境教育とは、森林を中心とした環境教育 (本来の森林環境教育 = 森林ESD)



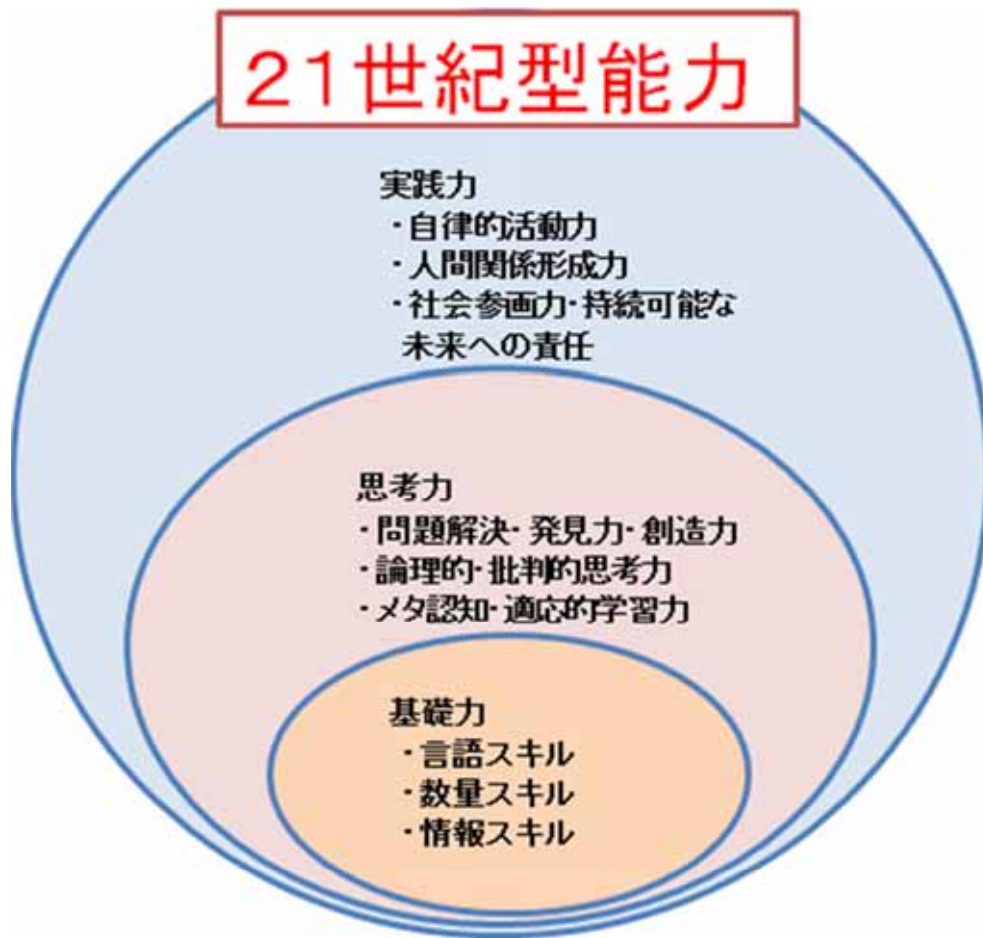
- 環境とは、「関係」をあらわす概念である
environment=まわりの条件・影響・状況(関係)
surroundings=まわりのもの(存在)
- 環境教育のねらい
「環境問題の解決とよりよい環境の創造」
- 環境教育の三つの視点の統合
 - ・環境の中で/からの…環境を調べる力、感性
 - ・環境について…環境に関する正しい認識
 - ・環境のために…環境をよりよくする態度、参加

社会的課題への対応



- 持続可能な社会の実現
- 日本の危機的な森林状況とその打開
- 地球温暖化の進行と温暖化効果ガスの排出削減
- 「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」(環境教育等促進法/H.23.6)
「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」
(旧法/H.15.7)の施行(H.24.10)

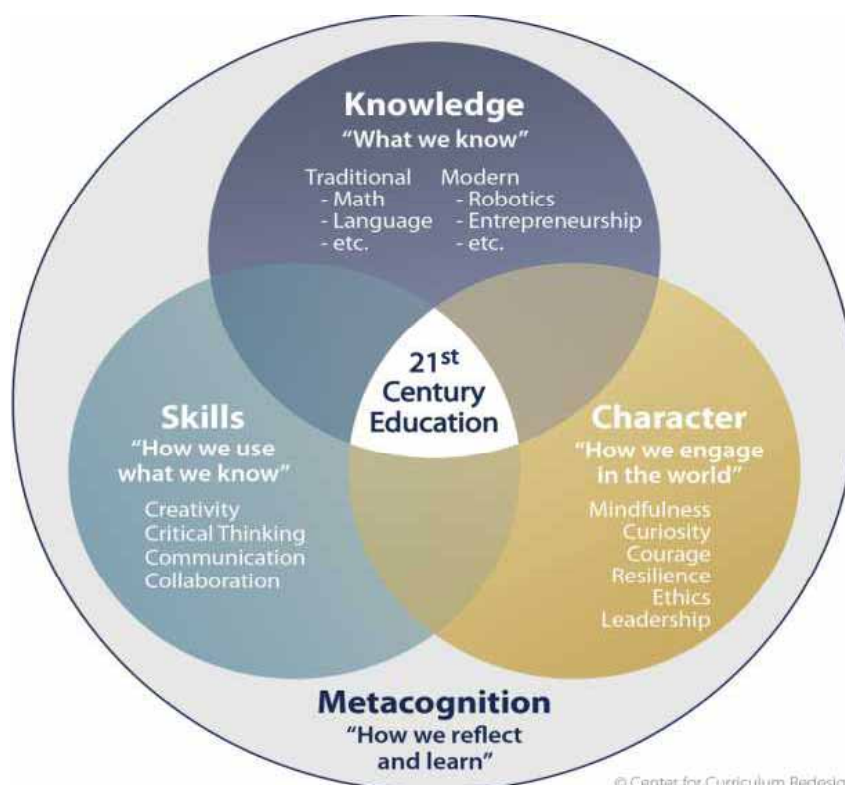
21世紀型能力



思考力を
中核
それを支
える**基礎**
力
使い方を
方向づけ
る**実践力**

国立教育政策研究所「社会の変化に対応する資質や能力を育成する教育課程編成の基本原理」2013.3

OECD EDUCATION2030のコンピテンシー





< 森林ESDの考え方 >

社会的課題への対応

教育的課題への対応

持続可能な開発のための教育 (ESD)

持続可能な社会の実現
健全な森林の維持
地球温暖化防止

環境教育

森林環境教育

(各活動)

ESD能力・態度

批判 未来 他面
伝達 協力 関連

参加

21世紀型能力

基礎力 思考力

実践力

2030年に向けた教育

知識・スキル・人間性

森林環境教育の内容(プロセス) (教材の条件)



- 美しい森林を実感できること
- 樹木や森林の特性がとらえられること
- 現実の森林の様子が具体的にとらえられること
- 生活と森林との「かかわり」が具体的にイメージできること
- 森林の維持・管理の方法が具体的にとらえられること
- 日本人と森林とのかかわりが見えること
- 体験をうながすことができること

森林環境教育(森林ESD)成立の三つのポイント



- 「体験の場」としての森林
→ 「森林」が豊かな体験を提供する場となること
- 「知る場」としての森林
→ 「森林」が正しい知識を得る場となること
- 「かかわる場」としての森林
→ 「森林」がかかわりをつくりあげていく対象となること

今後の充実に向けて



- 森林環境教育(森林ESD)として成り立つのか？
 - ・ 十分なところ と 弱いところ(今後の補強点)
- 学校教育との連携を如何に図るか？
 - ・ 教育課程との連関
 - ・ 課内(教科、総合等)の教育活動との連携
 - ・ 課外(緑の少年団等)の教育活動との連携
- 関係機関の連携のあり方はどうか？